

教育データの利活用と部活動の地域移行

総務・教育常任委員会では 11月5日及び6日の日程で、
教育データの利活用と部活動の地域移行について視察研修を行いました。

茨城県水戸市では、児童生徒一人ひとりに応じた指導や支援につなげ、子どもの心の健康観察を実施するため、端末を積極的に活用している。取り組みには多大な財政負担を伴うことから、本市では今後の検討課題である。

福島県会津若松市では、中学校の部活動は平日は学校、休日は地域で行われ、学校と地域との協働で生徒の育成が図られていた。本市では専門的な指導者から子どもたちは部活動の指導を受けているが、今後はその拡充が図られることが求められる。



市民・都市常任委員会視察調査報告

インキュベーション施設で起業の後押しを視察

市民・都市常任委員会では 11月7日に、産業振興をテーマとして、
宇都宮市の起業家支援施設や道の駅事業を視察しました。



起業家がここから育つ

宇都宮市では起業家支援施設「宇都宮ベンチャーズ」を運営している。支援団体、金融機関などの協力を得て起業を支援、シェアオフィスや起業家同士の交流に取り組んでいる。本市でも情報通信、コンサルティング、商品開発、広告、デザインなどの分野で起業を支援する取り組みの参考となった。

道の駅ろまんちっく村は農業振興や余暇の充実を目的とした施設である。本市単独での実施は難しいが、農業と観光をつなぐ考え方は今後の参考となった。

議会運営委員会視察調査報告

存在する議会から機能する議会をめざす

議会運営委員会では 10月31日及び 11月1日の日程で、
長野県飯田市及び駒ヶ根市で視察研修を実施しました。

飯田市では飯田市議会政策会議（行政評価）、地方議会評価モデル、一般質問を通じた議員力、議会力の向上について学んだ。

駒ヶ根市では、月2回の議員同士の意見交換を図るツキニミーティング、市民との情報共有及び市民参加促進など住民参画を意識した議会改革を学んだ。

視察を通じて、存在する議会から機能する議会をめざすきっかけとしたい。

